

MACHI-KADO

(財)静岡市文化振興財団

Vol.14

静岡文化情報

街かど

路地裏散策

静岡の繁華街

七間町
常磐町
両替町
人宿町

江戸時代からの町名が今も健在
町名の由来豆知識

エンターテイメントの街

シネマストリートの誕生
若竹座界隈・花街
気になるお店

ストリート パフォーマンス

青葉シンボルロード

シネマの街は アートがいっぱい

Information

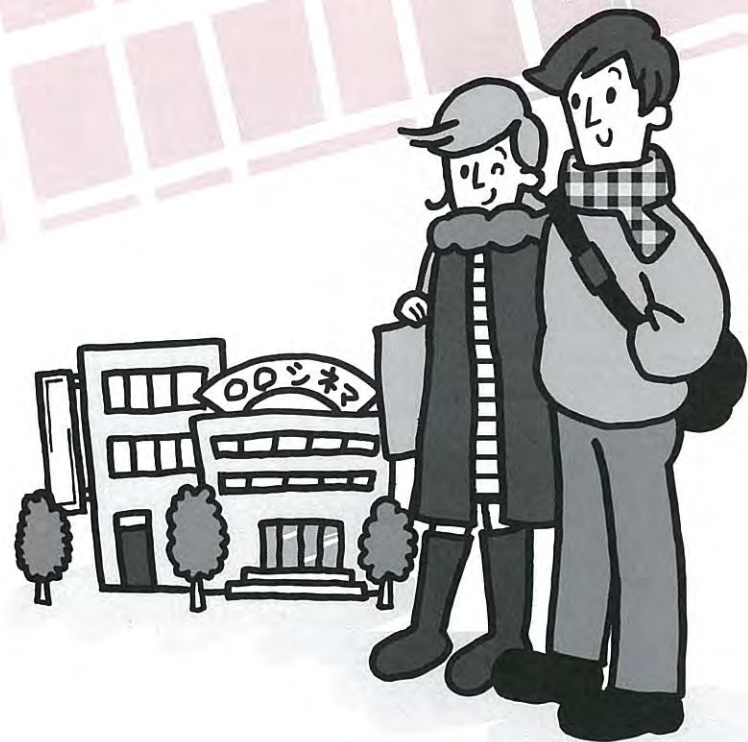
静岡市文化振興財団
イベント情報
静岡音楽館AOI
勤労青少年ホーム
児童会館
静岡アートギャラリー
芹沢銈介美術館



静岡の繁華街

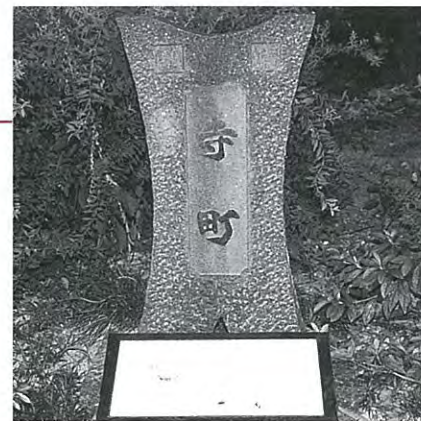
策地裏
散

七間町 SHICHIKENCHO
 常磐町 TOKIWACHO
 両替町 RYOGAECHO
 人宿町 HITOYADOCHO



江戸時代からの町名が今も健在
 町名の由来豆知識

静岡には、
 徳川家康公在城の頃に
 つけられた町名が
 今もたくさん残っている。



常磐町 ●ときわちょう

昭和20年の区画整理で新設した町。「永遠の繁栄を」という願いが込められてこの名が付けられた。元は、平屋町、下石町、下魚町、西門町、宝町などであった。



七間町 ●しちけんちょう

通りの幅が七間(約13m)あったためという説、特権業者の同業組合である「座」、特に米・油・魚等の主要品目である七座が並んでいたためという説がある。昭和6年までは、七間町通りは行き止まりとなっており、突き当たりには安立寺という日蓮宗の寺があった。(ただし、この寺の境内は通り抜けできたため、「抜け寺」とも呼ばれていた。)

人宿町 ●ひとやどちょう

もとは宿屋町であるが、後に伝馬町界隈に本陣・脇本陣が置かれ、公用の旅行者や一般旅行者を泊める旅籠町として発展するようになると、人宿町は、旅商人などを泊める宿屋街となった。

梅屋町 ●うめやちょう

梅屋という旅籠があったことからこの町名が付けられた。

慶安4年(1651年)徳川幕府の転覆を謀って事前に発覚した「慶安の変」の舞台が、この梅屋を舞台に繰り広げられたことは有名。

由比正雪らが、この梅屋に泊まっていて、捕り方に囲まれ、一行12名がごとごとく自刃して果てた。梅屋は謀反人を泊めたという理由で、家財没収のうえ追放処分となり、今はこの旅籠の名前だけが町名として残っている。

上石町 ●かみこくちょう

座の一つ、米座(米穀商)の人々が居住した町。かつては上石町の南に下石町があったが、昭和5年の大火の後、区画整理によって近くの町に併合され、町名はなくなった。

ちょっと豆知識 札の辻 ●ふだのつじ

呉服町通りと七間町通りが交差する四つ辻(現在の静岡伊勢丹前)は、江戸時代に高札場があったことから「札の辻」といわれた。情報機関の発達していない当時は、木製の立札に主としてお触書が掲載され一般の人々に知らされた。

この立札は一番の繁華街に立てられたことから、今も昔もここが中心地であったといえよう。



別雷神社 ●わけいかすぢんじや

この付近が「安倍の市」といわれ、物資交流の中心地として栄えた273年に守護神として祭られたのが始まりという。

別雷神社の祭神は玉依姫命(たまよりひめのみこと)、別雷神(わけいかすぢん)の二座で、足利、今川、武田、豊臣、徳川の武将から厚い崇敬をうけた。

現在の社殿は、昭和20年の戦火の後再建されたものである。

宝台院 ●ほうだいいん

徳川二代目将軍秀忠の生母、西郷の局(お愛の方)が葬られた寺である。

この寺を中心に、各宗派、各派の寺院が集まり寺町が形成された。

西郷の局は、徳川家康が浜松城において、武田の軍勢との戦いに明け暮れていた約12年間、城の台所を預かっていた側室だ。

寺の前身は柚木にあった竜泉寺で、紺屋町に移った後、秀忠がこの地に新築移転した。寺号が宝台院と改称されたのは秀忠の孝心に感心した朝廷が、「従一位宝台院殿一品大夫人」の法名を、西郷の局に与えたことによる。

明治元年から2年にかけて、徳川慶喜が約1年間この宝台院で過ごしたことも知られる。

LOVE SHIZUOKA

昭和20～23年、欧州映画封切場「セントラル劇場」
(七間町並木座の場所)



七間町といえば、まず頭に浮かぶのが
映画館。では、なぜここに映画館が
集まることになったのか。

NEEMA

「シネマ ストリート」の 誕生

もともとこの周辺は若竹座のような芝居小屋でにぎわいを見せていた。

明治33年ごろ、サイレントといわれた無声映画が若竹座で上映された。これが静岡初の映画の上映である。このころの映画は、芝居小屋で寄席や芝居とともに上映されていたようだ。

大正時代になると、芝居小屋は映画のみを上映する「活動写真館」へと衣替えを始めた。映画館として初めて建設されたのはパテ館であるが、わずか9ヵ月で火災のため消失してしまった。

大正8年には、今の静岡の主な劇場を有する「静活」の前身、「静岡活動写真株式会社」が札の辻に誕生した。静活はその後、キネマ館や電気館を建て、静岡の映画界をリードしていくこととなる。

この当時の無声映画は、「弁士」とよばれる人が黒いガウンを着て画面の横に立

ち、映し出される画面に合わせて名調子を奮っていた。切符売りは女性が行い、テケツと呼ばれていた。髪は日本髪を結び、後ろで大きく蝶々結びをしたエプロンを身につけていたという。

昭和に入ると、「活動写真」から「映画」に呼び名が変わる。

静岡の映画街の絶頂期は、昭和30年代の初期である。七間町に、映画だけでなく娯楽施設を含んだ総合娯楽センターが誕生したのもこの時期である。

こうして七間町といえば映画というイメージができあがっていったのである。

現在は映画館だけではなく、七間町の街全体が一体となったイベントをおこなったり映画祭を行うなど、昭和30年代のにぎわいを思わせるような試みが行われている。シネマストリートにける情熱にぜひ参加してみては。



昭和23年から二度の改装を経た静映劇場（七間町）

焼津屋

静岡市七間町10-8
松風堂ビル1F
☎054-250-2724

キャラクターグッズの並ぶポップで明るい店内に和・洋・中のお総菜が並び、オレンジ色のトレイにあれやこれやをチョイスする。何よりうれしいのは、煮物や煮豆が1人分、餃子・焼売が1個単位で買えること。しかもご飯の量り売りも行い、ふり

かけ1人分のバラ売りまでしている。この気配りとサービス精神が、この夏2つのイベントを手掛けさせた。

どちらも劇団ワハハ本舗の若手芸人を招いたもので、1つは、コミックバンド・ポカスカジャンのライブ。

夏真っ盛りの熱帯夜、焼津屋と同じビル内にある喫茶店松風堂のおよそ八畳の客席に80人がつめかけ、文字どおり、観客・ステージ一体のライブが行われた。

もうひとつは、元気安のホコ天ライブ。日曜の午後、町行く人は足を止め、若者たちは地面に腰をおろして、体当たりの路上パフォーマンスに盛り上がった。

次はどうやって楽しませてくれるのか？
本業のお総菜以外も楽しみなお店である。



営業時間/10:30~19:30 土・日曜定休

Erotic

静岡市七間町10-8
松風堂ビル3F
☎054-221-0543



エロティックという言葉聞いてどんなイメージを持つだろう。

Hな想像をした輩は底が浅い。例えば上質なお色気がそうであるように、掴み所もなく正体もないのに、なぜか感性のアンテナにピンピン響いてくる。何にでもなれそうな不思議な予感・・・。

ブティック・エロティックもまさにそんな感じだ。少し白っぽい照明の店内は、いくつもカメラがつるさがついていたり、針金のオブジェが置かれたり、掴み所がないのに印象的。

歌手のChara やジュディ&マリーが着ているGALALA、OSMOSIS、AJARA、ガルシア・マルケス等の服も置いてあるが、市内の高校生や服飾専門学校の学生がオーナーとテーマを決めて作っ

Indies Fashion

たインディーズの服がある。どれも一点ものの力作で個性が光っている。広くはない店内だが、そこを巡ることをエロティック・アート・ドライブと呼ぶ。言い換えれば、ここは隠れ家的美術館で、置いてある服は皆“作品”だ。

営業時間/11:00~19:30 水曜定休

Tea Time

キルフェボン

静岡市七間町9-7
☎054-252-3959



雑貨を選ぶようにケーキが買えたら...そんな願いをかなえてくれるのが、ここキルフェボン。フランス語で「なんていい陽気!」という意味の店名の由来は、「このお店でお天気のいい日に伸びをするみたいな気持ちいい時間を過ごしてほしい」から。

従来のケーキ屋さんのスタイルでは味わえない、ケーキを選ぶ楽しさを“キルフェスタイル”を通して、お

客様に感じていただきたい。

ショーケースに並ぶ20種類近くのホールケーキは、どれも選ぶのに迷ってしまうほど、見た目にもおいしそうな物ばかり。香ばしいタルトをはじめ、最高級のクリームやチョコレートを使用し、上品な甘さに仕上げられている。バースデーケーキも予約をすれば作ってもらえるそうだ。

営業時間/11:00~20:00 年中無休



「若竹座」ときいて、懐かしい人もいるのでは……。
畳敷きでマス席の芝居小屋には、
現在の劇場とは違う空気が流れていた…。

若竹座

わかたけざ



江戸時代、この辺りの寺院では、京・大阪の中継地として興行が行われていた。

明治に入ると若竹座をはじめとする芝居小屋が建てられたが、この街のエンターテインメントな雰囲気はここから作られたのだろうか。

昨年のNHK大河ドラマにも登場した火消役人の新門辰五郎が、明治2年に江戸からやって来て、この地に玉川座を建てたのが若竹座の始まりである。また、玉川座は辰五郎が作った町火消し

の資金調達や子分が悪事に手を染めるのを防ぐ役目もしていた。

玉川座をつくるにあたっては、金策に清水の次郎長が一枚加わって奔走したともいわれている。

その後、玉川座は経営者が代わるごとに、小川座、宝座、若竹座と名前を変え、昭和15年静岡大火により焼失するまで静岡の人々を楽しませてきた。

若竹座の出演者はそうそうたるメンバーが名を連ねている。古いところでは、

松井須磨子や川上貞奴。また、市川猿之助などの歌舞伎役者も舞台に立った。長谷川一夫も林長丸時代に、そして杉村春子や宇野重吉らの新劇人などの豪華な顔ぶれも出演した。

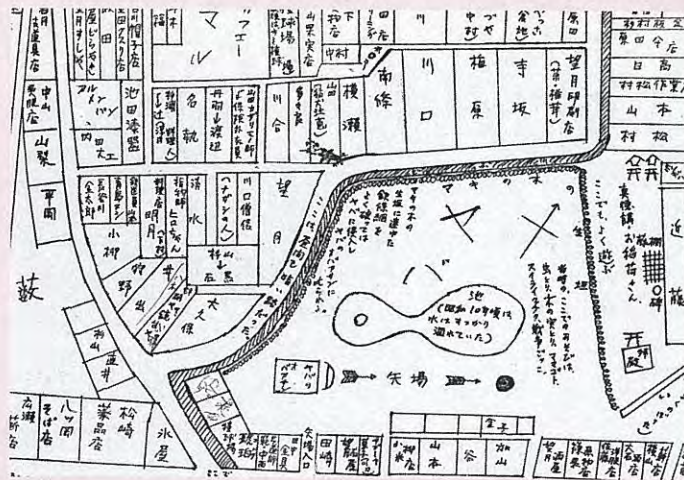
芝居小屋の近くには茶屋があり、常連客たちは入場前に立ち寄り、芝居が終わってはまた立ち寄って、酒食にふけていた。

七間町周辺のにぎわいは、こうして現在に受け継がれている。

若竹座 界限小話

若竹座の並び、現在の新通1丁目から常磐公園にかけて13の寺院が並び寺町と呼ばれていた。

徳川家康が駿府の城下町を整備した際、西国の勢力を強く意識して、城下町のはずれに寺を集めることで敵の攻撃に備えていたのではないかと考えられているが、そんな思惑はさておき、戦前のこの地域のエピソードは実に楽しいものばかりだ。



現常磐公園の裏あたりには、二丁町にあった遊廓・蓬萊楼の別荘があり中に矢場があったため、「ヤバ」と呼ばれ、子供たちの遊び場となっていた。ヤバで遊んだかつての少年たちの話によると「鉄

条網を破ってはヤバに侵入し、戦争ごっこ、虫とり等をして遊んだ。ヤバの管理人のおばあさんに見つかると、クソパンパアなど悪態をついた、いやはやよく遊んだ。」「当時、七間町通りは安立寺(現春日町へ移転)で行き止まりだった。安立寺は別名・抜け寺、二丁町・遊廓への抜け道が横にあり、小便小路とも呼ばれくさかった。境内では、大道芸が行われ、中国奇術団が青龍刀を飲み込む芸をみせたりした。」そうだ。

現在の大道芸のにぎわいを暗示させる話であるが、嘘か真か、すべて古き良き時代の話である。

花街

花街華やかかなりし頃…。

両替町・常磐町には料亭と置屋が並んでいた。戦前、芸者衆は300人程おり、輪たく(自転車の横に人力車がついたもの)に乗って料亭へ向かう姿が見られ、芸者の三味線を料亭に運ぶ箱屋という商売もあったという。

常連客はお茶を商う大店の旦那衆等であったが、昭和初期には、詩人の北原白秋が来静し、芸者の一人が「きゃあるが鳴くんで雨づらよ」とつぶやいたことをヒントに「ちゃっきり節」を書き上げたのは有名な話だ。



30年ぶりの半玉・めぐみさん

芸者衆は、各置屋に所属し、料亭に呼ばれ仕事をする。その料亭と置屋の仲介をするのが見番で、「何月何日に芸者を何人」と料亭からの申し込みを受け、置屋に連絡、芸者を手配し、花代の清算等の事務処理をする。

見番には、芸者衆のスケジュールを管理するため、芸者の名前が書かれた木札がかり、また、芸者衆の集会、踊り・唄の稽古場としても使われ、芸者協同組合もしくは、花街の管理塔ともいえる役割をはたして昭和58年まで存在した。常磐町1丁目、現在の小林生花店がその場所だ。



秋の宴

花街のREVENGE…。

9月、「秋の宴」が催された。現在、静岡で活躍する芸者衆が、自分たちの芸を保存し、理解してもらふことと、最良筋のお客様への感謝を込めて年1回開いている宴で、6回目の今年は、両替町の料亭・三笑亭が会場となった。

見番も置屋もなくなった現在、芸のできる芸者は10人となり、それぞれ個人で料亭からの仕事をうけているが、「芸者衆でなければ」という粋人たちはやはりいる。



三笑亭の女将さんも「お客様の気持ちをくむことができ、座持ちが良く、安心してお座敷を任せられるのは、やはり芸者さん」だと言う。

さて、この芸者衆の中に一際若い芸者がいる。6年前、30年ぶりの半玉としてデビューしためぐみさんだ。

今も現役の芸者・竹栄さんを祖母に持ち、「日舞が大好きなことと、高校生の頃のアルバイトで接客が向いていると思った」ことがこの世界に入るきっかけだったとか。「お座敷に上がるのは楽しい、自分自身もストレス解消になってしまう」とまさに天職を得た彼女だが、毎日、新聞を読み、踊り・鳴り物・長唄・小唄の稽古もかささない。お座敷でお客を楽しませるコツはと聞くと、「とにかくお客様楽しんで、笑顔で帰ってほしいと思っている…。でも、素でぶつかっていってますよ。」という。

この飾り気のなさがお座敷でのきっぷの良さとなるのだろうか。

「芸者の世界に若い人が入ってきてもらいたい。私もずっと続けたいし、もし、結婚して子供ができて時期をみて必ずREVENGEしますから」めぐみさんの元気が花街全体のREVENGEにつながっていくかもしれない。

青葉シンボルロード! 常磐公園

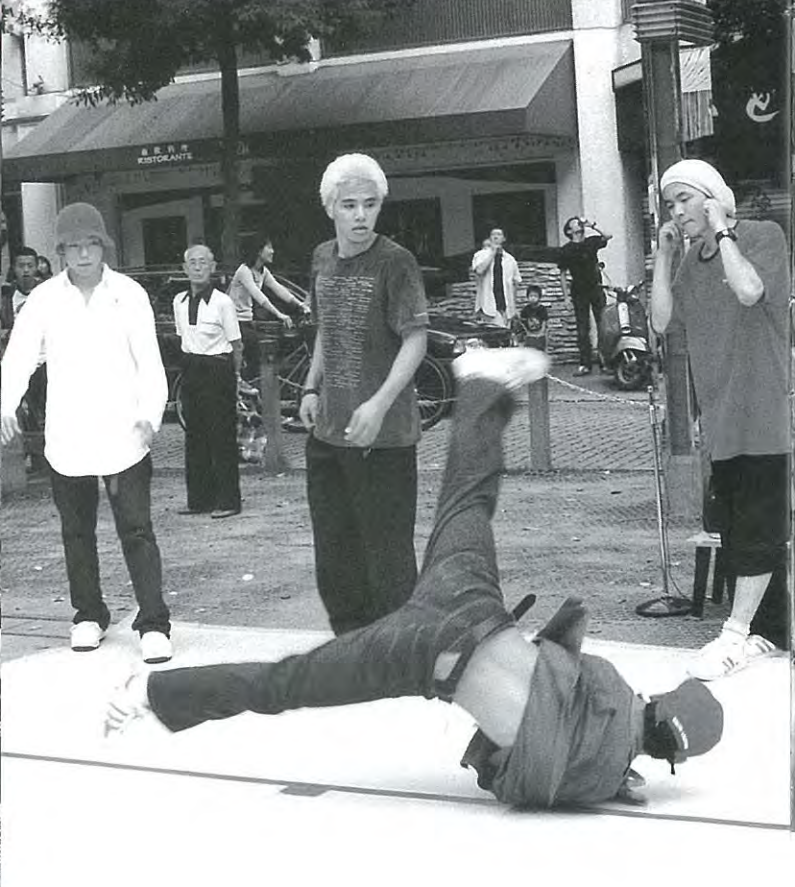
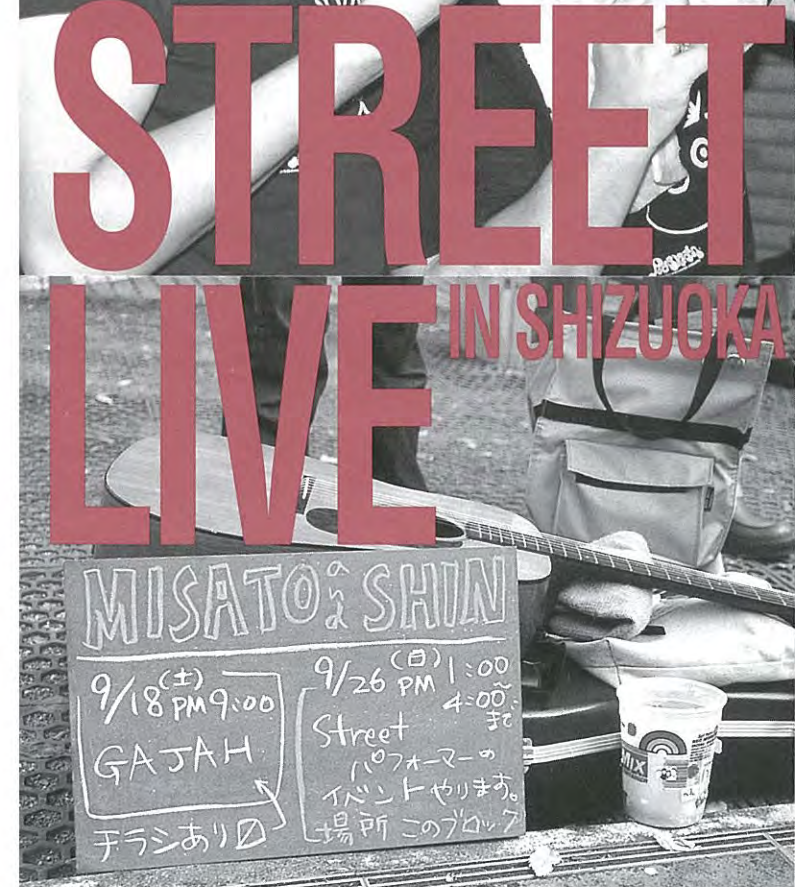
静岡市役所から常磐公園までの約500mにわたる青葉シンボルロードは、市役所側から光のゾーン、イベントゾーン、安らぎのゾーン、水のゾーンに分けられそれぞれのゾーンにはユニークなモニュメントやオブジェが置かれている。イベントゾーンでは、各種イベントやフリーマーケットなどが行われ、大人から子どもまでが楽しめる憩いの場として定着してきた。最近では、若者のストリートパフォーマンスの場としての新しい顔もみせている。夜は様々なライトアップされ、常磐公園で行われる水と光と音の噴水ショーとともに、夜の街を彩っている。

様々なイベントが 新しい静岡をつくる

真夏にアツイ JAZZを!

夏の夜、カクテル片手にスイング・ビートに身をゆだねて……。青葉公園でジャズフェスティバルが開催されるようになって3年。このコンサートも真夏の風物詩となった。静岡ジャズ愛好会が地元静岡のミュージシャンなどによるコンサートを行っている。コンサートを聴くために来る人、買い物帰りに立ち寄る人、いろんな人に心地よいサウンドが届けられる。

STREET JAZZ IN Shizuoka



MISATO & SHIN

音楽はストリートで生まれる。
青葉公園には、ギターを持った若者がたくさん集まる。その中で毎週日曜の2時から4時の間、スマル亭前のブロックで定期的にライブを行っている男女のデュオ。

「ストリートでは、出会うはずのない人と出会え、友達ができる。そして、何よりも聞き手の正直な反応がもらえる。」

なるほど、演奏中、二人は声をかけていく人に応え、突然吠えだす犬や二人に寄っていく子供、酔っぱらいのおじさん等々・・・、そこで起こるすべてを自分たちの音楽にとりこんでオリジナル曲もカバー曲も今生まれたばかりのように新鮮に響かせ、とても楽しい。

「ストリートがパーティになっていくといい、静岡がそんな楽しい街になるといい」と言う2人に音楽のジャンルを尋ねると「ストリートソウル」と返ってきた。

Street Live in Aoba-Park



音楽はストリートで生まれる。

シネマの街は アートがいっぱい。

七間町を中心としたこの界隈は、街かどがちょっとしたギャラリーになっている。市役所から青葉シンボルロードを抜けて、七間町の映画館街へと歩いてみよう。青葉シンボルロードの各ゾーンには、モニュメントやオブジェが置かれ、訪れた人々の目を楽しませてくれる。「天使の虹の階段」は、アメリカのエリック・オアの作品で、四角の石柱の表面に彫られた溝に沿って流れる水の文様が様々に変化する。「ZEN」は、フランスのベルナル・シドンの作品で、半球体の石の器に四方から水が注がれ、満杯になると石の器がゴロンと転がり水がこぼれる仕組みになっている。石の転がる方向は転がるまでわからない。アメリカのウィリアム・マクチュランの作品「出会い」は、街かどでばったり出会って驚く中年男性二人の姿をユーモラスに描いたものだ。どれも街の喧騒の中で、見る者に安らぎを与えてくれる。



「出会い」



別雷おでん街看板



あおいパーキング壁画



村上パーキング壁画



オリオン座・有楽座の壁画「グランジェット島の日曜日」

壁面アート 「グランジェット島の日曜日」

青葉シンボルロードを通りながら、ふと視線を上に向ければ、ビルの壁に描かれた壁画が飛び込んでくる。ほのぼのとしたパステル調の馬の絵や妖艶な女性の絵などが殺風景なビルを彩る。

また、店の看板もなかなかアートしている。別雷神社の横にある、通称「別雷おでん街」の看板は、おでん街という日本的なイメージを一新するようなアーリーアメリカンっぽさが魅力。

映画街へと足を進めると、古い映写機や映画のセットなどが通りに設置され、映画の街をアピールしている。また映画館の壁に描かれた「グランジェット島の日曜日」をモチーフにした壁画も「街かどの美術館」にはピッタリだ。

七間町といえば映画館。映画館街の中でも一際目を引くのが、現在のオリオン座・有楽座の建物にある壁画「グランジェット島の日曜日」である。

この壁画は、スーラーの「グランジェット島の日曜日」を模したもので、点描画法というこの絵の特徴を、タイルをひとつひとつ張り合わせるという緻密な作業によって見事に表現している。

この壁画は、昭和31年6月から1年の

歳月をかけて制作され、タイルは岐阜県

の多治見市の工房で焼かれた。多治見で作られたタイルを静岡まで運んで組み立て直すという、かなり手間のかかる方法がとられたのであるが、これも昭和30年代初頭の映画に対する期待の現れであり、日本映画の全盛期の象徴といえよう。

今度、映画を見に行ったら、ぜひこの壁画を見てみたい。



「ZEN」

Information

1999

財団法人静岡市文化振興財団 インフォメーション

開催日	問い合わせ先	会場	タイトル
11月26日(金)	文化振興財団	市役所売店	「しずおか市民文芸」第53号 販売開始 (1冊 600円)
12月5日(日)15:00~ 11日(土)18:00~ 12日(日)15:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	モーツァルトから子どもたちへ オペラ《小さな魔笛》 (全席自由 2,000円/大学生以下 1,000円)
12月5日(日)13:00~	勤労青少年ホーム	静岡市視聴覚センター	チャリティライブ(無料)
12月8日(水)~10日(金) 12:00~	文化振興財団	市役所1階	第25回 Hot ひといきコンサート(無料)
12月14日(火)~ 1月23日(日)	静岡アートギャラリー	静岡アートギャラリー	企画展「加守田章二 陶芸展 ~変容する表現を追う~」(大人 300円/小人 150円)
12月18日(土) 19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	プーランク生誕100年記念 プーランクとその時代 (全指定 3,500円/大学生以下 2,500円)
12月19日(日)	文化振興財団	市民文化会館大ホール	NHKのど自慢く市制110周年記念 (要整理券)

2000

1月8日(土)・9日(日)	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	リコーダー・アンサンブル・コンテスト 予選
1月14日(金)19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	ピアノ四重奏 竹澤恭子・川本嘉子・堤剛・田崎悦子 (全指定 4,000円/大学生以下 3,000円)
1月21日(金)19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	第2回「静岡音楽館AOIコンサート企画募集」事業 桑原啓郎バリトン・リサイタル(有料)
1月26日(水)~28日(金) 12:00~	文化振興財団	市役所1階	第26回 Hot ひといきコンサート(無料)
1月30日(日)	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	リコーダー・アンサンブル・コンテスト 本選
2月4日(金)19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	ショパン没後150周年記念第3夜 小山実稚恵 ピアノ・リサイタル(全指定 3,000円/大学生以下 2,000円)
2月4日(金)~ 5月28日(日)	芹沢銈介美術館	芹沢銈介美術館	芹沢銈介コレクションより 信仰のかたち (大人 410円/学生 250円/小人 150円)
2月5日(土)~ 3月5日(日)	児童会館	児童会館	児童会館子ども手作り絵本展(無料)
2月11日(金)~ 3月5日(日)	静岡アートギャラリー	静岡アートギャラリー	特別展「ホイッスラーからウォーホールまで —版画に見るアメリカ美術の100年展—」(有料)
3月中旬~4月中旬	静岡アートギャラリー	静岡アートギャラリー	企画展「人間国宝シリーズ3 浜田庄司展」(有料)
3月27日(月)	文化振興財団	市民文化会館大ホール	NHK 交響楽団演奏会<市制110周年記念> (有料)

文化振興財団 ☎054(255)4746 静岡音楽館AOI ☎054(251)2200 静岡アートギャラリー ☎054(289)5400
芹沢銈介美術館 ☎054(282)5522 勤労青少年ホーム ☎054(253)0731 児童会館 ☎054(252)6161

ご予約承り中! 静岡北ワシントンホテルプラザ

忘・新年会「ポッキリ宴会・集い」

平成11年11月15日(月)~平成12年1月16日(日)

お値打ち料金で



和食
しゃぶしゃぶ・鍋・割烹
銀 ぎんざ 堅

幹事様安心の「ポッキリ宴会」2時間飲み放題

(税金・サービス料込み)
5,000円コースより しゃぶしゃぶ又は和風会席[雪]七品

このほかにも、コース料理やぶく料理、旬の会席もございます。
お気軽にお問い合わせ下さい。お料理内容をFAXいたします。
銀座直通ご予約・お問い合わせ ☎054-251-6771



中華料理
百聞は一見に如かず
チャイナテーブル

幹事様安心の「ポッキリの集い」2時間飲み放題

(税金・サービス料込み)
5,000円コースより 山芋の変わり揚げ・麻婆豆腐かにか玉やわらか炒め 他全7品

このほかにも、コース料理は2,000円よりご用意いたしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。お料理内容をFAXします。
チャイナテーブル直通ご予約・お問い合わせ ☎054-251-6770

ワシントングループホテル 静岡北ワシントンホテルプラザ

〒420-0035 静岡市七間町11-1 ☎054-221-0111 (代表)



参考資料

- 「映画館街の人類学—資料編—」(嶋田義仁編 静岡大学人文学部 社会学科 文化人類学研究室)
- 「町名の由来」静岡新聞社 (飯塚伝太郎著 長倉智恵雄補筆)
- 「駿府の歴史」(静岡市観光協会)
- 「静岡市立新通小学校創立八十周年記念誌 たかね」(静岡市立新通小学校創立八十周年記念誌編集委員会)

From Editor

編集
後記

◆青葉シンボルロードの周辺は、仕事の帰りや買い物の合間などに普段になげなく歩いている場所。でも知っているようで知らないことがいっぱい。取材してきて再発見の連続でした。

◆流行の最先端をいく街のようでありながら、古いものも混在している不思議な街。ただ、古いものが日々なくなっていくのはちょっと寂しい気がします。

◆皆様がお持ちの情報をもとに取材をしたいと思います。ご意見・ご感想・情報を、ドンドンお寄せください。

静岡文化情報「街かど」第14号

●発行(年2回)

平成11年11月

●編集・発行

(財)静岡市文化振興財団

〒420-8602 静岡市追手町5番1号

静岡市役所企画部文化振興課内

TEL・FAX 054-255-4746

●印刷

株式会社バビア中央

静岡市中野新田315番地の2

七間町映画街に 静岡ピカデリー1&2

リニューアル OPEN!

東海地方最大のヒメアマツバメのコロニーがある映画館静岡ピカデリーが新しくなりました。



素敵な街で
新しい映画館が始まります。

- ◆快適シート[全席カップ・ホルダー付]
463席[ピカデリー1] & 315席[ピカデリー2]
- ◆くつろぎのロビー・ホール
- ◆ドルビー・デジタル音響システム完備

2000年お正月公開作品



©1999 Warner Bros. All Rights Reserved

◆ピカデリー2



© Burroughs and Disney TARZAN™ Edgar Rice Burroughs, Inc.

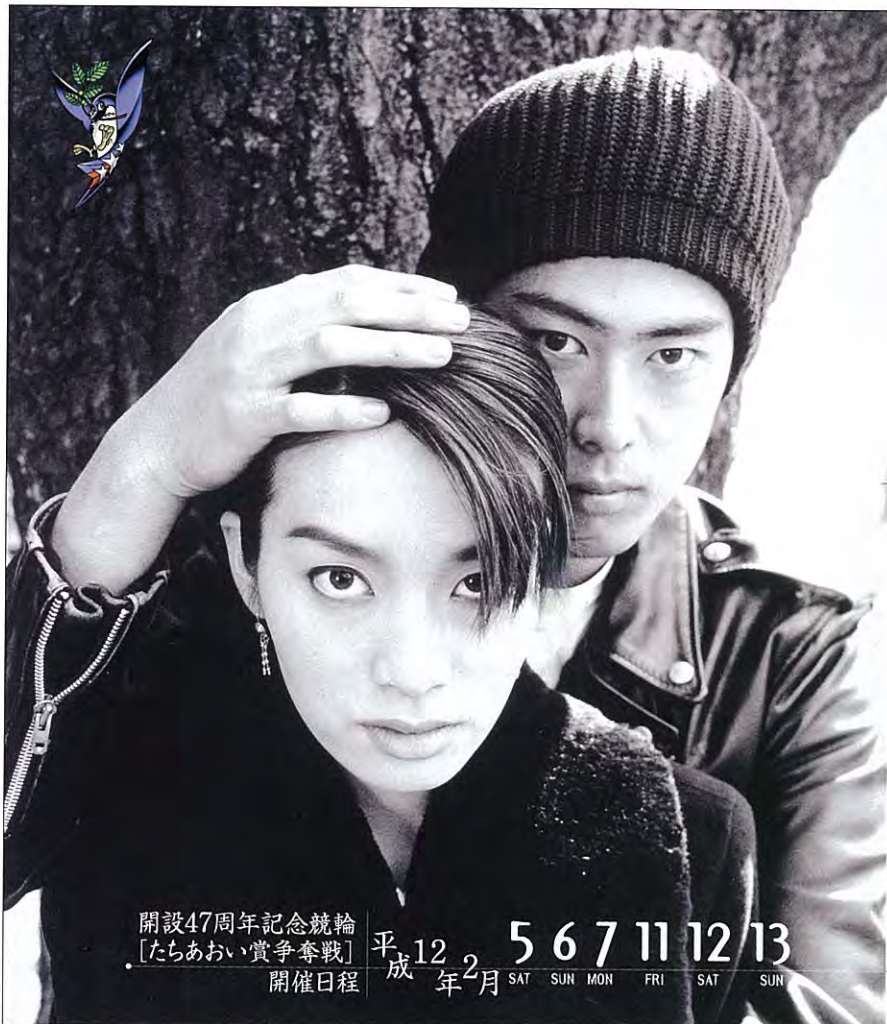
◆ピカデリー1

駐車券割引実施中!

お車でお越しの方は駐車券提示で
1名様分 料 ¥1,000(込)

七ぶらシネマ通り・オリオン座向い
静岡ピカデリー1/2

☎054-253-0971/253-2564



2人に夢をください。



開設47周年記念競輪
[たちあおい賞争奪戦]
開催日程

平成12年 2月 5 6 7 11 12 13
SAT SUN MON FRI SAT SUN

